

南東北を結ぶ「高速道の輪」誕生

福島県相馬市を起点に山形県を縦断し、秋田道に接続する東北中央自動車道の南陽高畠IC～山形上山IC間が開通した。これで東北道、山形道、東北中央道が連結し、仙台市、山形市、福島市を結ぶ高速環状線が完成。首都圏から山形まで2ルートの高速度路でつながり、観光振興や物流効率化などの効果が見込まれる。

「最も大きなメリットは、地域医療環境の改善と国道13号の混雑解消です」と話すのは、所内業務の調整・統括を行う工務課の高橋昌大さん。沿線3か所の三次救急医療施設への搬送時間が短縮するほか、平日混雑度[※]1.8超の国道13号の代替路となり、慢性的渋滞の緩和が期待されている。

測量や地質調査、関係機関との設計協議などを経て、工事開始から供用まで約8年。南陽高畠工区区の佐藤悠貴さんは「側道や水路を造るなど、地元の方々との8年分の約束を代々の担当者から引き継ぎ、漏れなく果たすことに注力しました」と語る。

軟弱地盤と低土かぶりに苦慮

大変だったのは「白竜湖周辺3km区間で、地底岩盤まで約90m続く超軟弱地盤の対策です」と佐藤さん。完成後の地盤沈下を抑えるため、地

中の水と空気を吸い上げ、地盤を圧縮する真空圧密工法で土台を造った。ほかの工法と比べると短い工期だが、道路舗装や標識設置などを行う舗装工事班の加藤宏祐さんは「土工工事が難航したため、その後の工事の調整に苦心しました」と言う。現場では施設工事班が行う電気などの工事も並行して進めるため、互いに協力し、全体の進捗状況に配慮した。

小さい山形蔵王トンネルに苦労したとか。「特に国道13号の地下が大変で、改良剤を注入して地面を強くしてから、昼夜3交代で掘りました」。地元に愛される高速道路に
本区間は東北中央道で同社が手がける最後の区間。全員、高速道路の新規建設をやりとげた感慨は深い。館野さんはわが子に「俺が造ったんだぜ」と言うのが楽しみだとか。佐藤さんは地域の協力に感謝し「愛される道路を目指し、今後も共に歩んでいきます」と抱負を語った。



ハイウェイを支える人々

Vol. 38

高速道路の裏側に潜入

東北中央道の南陽高畠IC～山形上山IC間がついに開通！
高速道路の新規建設に携わった山形工事事務所の若手4人に
完成までの苦労や現在の思いについて伺いました。

東日本高速道路株式会社 東北支社 山形工事事務所



工務課
高橋昌大さん



蔵王工事区
館野哲志さん



南陽高畠工区
佐藤悠貴さん



舗装工事班
加藤宏祐さん



1. 本区間の開通で、山形市～米沢市間の所要時間が約20分短縮
2. 業務を順調に進めるため、風通しよく気軽に話し合える環境に
3. かみのやま温泉IC。手前が南陽市方面、左奥が山形市方面
4. そろいのはっぴ姿で山形花笠まつりに参加。地域交流の一環